

卒業後の自分を想像する センパイからのメッセージ

笠原 健志 さん

令和元年3月卒業 / 小学校教諭



自分の転機になったものは？

◆無人島 学生ボランティア◆

「命の大切さとは？・当たり前の反対とは？」ということを知り、今でも小学生にその話をしている。また社会の授業で無人島を教材に下水処理などの勉強を行い学習に活かすことができた。

H28年6月 学部2年
どろん子サッカー大会
実行委員メンバーとして活躍！



H29年4月 学部3年
カンボジア笑縁団体説明会
団体の中心メンバーとして
活動しました。

◆介護のアルバイト◆

利用者さんとの関わりのなかで、自分の当たり前が一番覆された経験があった。「利用者の為に率先して何かやってあげようではなく、相手が何をしてほしいか、それは本人が一番知っていて、その気持ちに寄り添うことが大切なんだ」ということを学んだ。これは「幸せ」も同じ。その人の幸せは、その本人が決めるものなんだと感じた。カンボジアの体験と当てはまり、より記憶に残っている。カンボジアの子だからとか、障がいを持ってる方だからではなく、1人の人間として関わり合っていければと思った。

また小学校の福祉の授業で介護のバイト経験を子ども達に話したり、実際に仲良くしている利用者に学校に来ていただいて、講師として授業をしてもらったりしている。

学生に伝えたいこと！



- ① 学生の時にとにかく色々な所に行き、色々な人と出会って、繋がりをつくる。

人に囲まれて働くという環境のなかで、自分の経験と相手との共通点があると、教育はもちろんその他の色々な話ができ楽しいし、職場には結構面白い人が沢山いることに気づける。そして自分のやりたいこと（趣味）につながる。新しい環境に飛び込んでも、あっここでつながってるんだ！とつながりに驚かされた。

- ② 憧れの人や、目標になる人をマネする。

自分には持ってないものがあるな、この人凄いな（自分の場合は喋り方や、考え方）と思える人を何人かつくっておく。そして、ただ漠然と「凄いなー」ではなく、憧れの人との共通項を出してみる。すると自分の大切にしたいことや、足りないものが出てくるので、憧れの人のおいところを真似して自分のものにしていく。

- ③ 自分の得意を3つ作る。

人は短所に目がいきがちだけど、短所をカバーできる得意（長所）があればいいと思う。学生時にそれを伸ばせたらなと思う。また、得意なもの1つだけだと（例えば陸上が得意）と同じ土俵にいる人は沢山いる。なので、得意なもの3つ（複数）つくって、自分にしか立てない土俵を作っておくことで、面白がってもらえるし、色々なチャンスを周りがくれる。

- ④ 人はすぐに変わらない。

子どもも大人も人はすぐに変わらないと感じる時がある。特に大人はプライドも相まってなかなか変わらない…。でも、自分の考え方や接し方を変える事はできる。こちらのアプローチはこれでいいかな？と常に考えたり、自分の引き出しを増やしたりしておくことで柔軟に対応できる。こんなことを大切にしながらこれからも働きたいと思っている。



H30年3月 学部3年

ネットワーク交流会で学生発表（カンボジア海外支援についての学びを発表）